

## ニュースリリース

### 「抗ウイルス活性物質の構造解析と新規有用物質探索に関する共同研究契約の締結」

株式会社ニムラ・ジェネティック・ソリューションズ（神奈川県厚木市、以下 NGS 社）は北海道大学大学院水産科学研究院吉水守教授（以下、北大吉水研）との間で、吉水教授が発見した抗ウイルス活性物質の物質評価のための共同研究、ならびにマレーシアの生物資源から新たな抗ウイルス活性物質の探索を行うことに関し、今般合意に達しましたのでお知らせ致します。

NGS 社は、マレーシア国立森林研究所（FRIM）、サラワク州バイオダイバーシティセンター（SBC）、マレーシアペラ州 BioPerak 社との間で、マレーシア全土に生息する生物資源を合法的に研究利用できる契約を締結しており、FRIM 敷地内に自社研究所を所有するバイオベンチャー企業です。

北海道大学吉水研究室は、産業的に重要な魚の病気、特にウイルス病を対象に、診断法の開発、防疫対策の確立を目指し研究を行っており、防疫対策では、親魚の健康診断法、飼育用水および排水の殺菌法、魚病の迅速診断法、ワクチンの開発、プロバイオテックスの導入等を実践し、産業被害の軽減に貢献しています。また、最近では増養殖生産物の食品としての安全性確保を目的に、漁獲の現場から産地市場・加工場・流通・消費者に至る過程を含めた“安全・安心”の提供を目指して取り組んでいます。

近年、農林水産業界で深刻な被害をもたらしている社会問題として、漁業・養殖魚のヘルペスウイルスが上げられます。代表的なものとしては、鯉ヘルペスウイルス病（KHV）などがニュースの話題になりますが、養殖魚が大量死する被害は深刻であり、一度に数億円の被害をもたらすなど養殖や野生のコイなどに大きな影響を与えています。

このヘルペスウイルス病は、近年、発見された新しい感染症であり、まだまだ不明なことが多いのが現状です。国際獣疫事務局（OIE）においても、未だ重要な疾病として指定されていません。この KHV は、1998年にイスラエルやアメリカでコイの大量死があり、2000年にこれが新しいウイルス（KHV）が原因であると発表されました。その後、ヨーロッパやインドネシアなどでもコイヘルペスウイルス病の発生が確認されています。

本研究で NGS 側は、リード物質探索のために、当該生理活性物質の精製・単離・構造解析・作用機構の研究を実施することにより、医薬品等に有用な化合物を同定することを目的とし、また北大吉水研では、新規活性物質探索のためのアッセイ系の構築とスクリーニングを行い、生理活性物質の探索を行っていきます。

本共同研究の実施は、NGS がもつ生物資源へのアクセス権を有効利用した新たなマーケット  
ニーズ開拓への取組みであり、日本ならびに世界における漁業・養殖業の発展と貢献するもの  
と考えております。

平成18年1月10日

株式会社ニムラ・ジェネティック・ソリューションズ  
代表取締役社長 清田圭一

参考：生物多様性条約(CBD)とは、1992年リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(リオ環境  
サミット)で採択され翌1993年に発効した国際条約であり、この条約の主な目的は、生物多様性の保全お  
よびその構成要素の持続的な利用および遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分です。この  
条約の発効により、遺伝資源提供国の許可を得ないまま遺伝資源を利用することは不可能になっています。

また、マレーシアは、日本の国土の約4/5程度の面積にもかかわらず、世界の生物種の約10%が存  
在していることが統計的に知られ、世界のメガダイバーシティ国家(生物多様性が豊かな17カ国)の  
ひとつに数えられる程、生物資源が豊かな国として認められています。

株式会社ニムラ・ジェネティック・ソリューションズ

本社：神奈川県厚木市泉町11-15-5F

設立：2000年6月

資本金：299,200,000円

従業員数：40名(2005年11月現在)

事業内容：生物資源由来の有用物質の探索研究・開発

連結子会社：Nimura Genetic Solutions (M) SDN.BHD. (マレーシア現地法人)

北海道大学大学院 水産科学研究院 吉水研究室

吉水守教授：日本魚病学会評議員、日本ウイルス学会北海道支部幹事、日本魚病学会会長など  
を歴任(水産学博士)

所在地：北海道函館市港町3丁目1-1

研究テーマ：魚類ウイルスと魚類ウイルス病の防除に関する研究および増養殖産物の食品と  
しての安全性確保に関する研究